

YASHIRO



チーム  
よろづやP  
J

千曲市 屋代地域



4年 依田舞    3年 佐藤瞳海    2年 萩原遥輝    4年 稲玉啓介



## 空きビルが商店街のシンボルに！ まちと人をつなぐ「喜び処」づくり

2017年9月7日、千曲市の屋代駅前通り商店街に新たなシンボル「和かふえよろづや」が誕生。その正体と、そこを拠点に活動する学生の姿をのぞいてみませんか？

(右)名産の杏。  
甘酸っぱさが  
たまりません



よろづやプロジェクトが始まったのは2016年6月。かつて「よろづやホテル」だった空きビルを、人が集まる地域の交流・たまり場としてリノベーションすることを目的に活動してきました。そして、ついに2017年9月7日、「和とつながり」をテーマにした「和かふえよろづや」がオープン！ここを拠点に取り組んできた、ちくまミライ合同会社の小林啓利さん、松林和彦さん、小林稜治さん、北村たづるさん、増田朱美さんの5名との活動を紹介します。

### I. 商店街調査

まずは屋代駅前通り商店街の実態を知るために、メンバー全員で商店街をぶらり歩きました。杏を使用したお菓子のお店や楽器店、書店など、バラエティに富んだラインナップは歩いているだけでも楽しい！しかし、全83店舗のうち空き店舗が13もあることが分かり、この地域を元気にしたいという想いが一層強くなりました。



### II. 和かふえよろづやDIY

よろづやの工事が本格的に始まった夏。壁のペンキ塗りや室内清掃、玄関施工などをおこないました。冷房もない室内はまさにサウナ状態で、作業も一苦労です。それでも汗だくになりながらお店づくりに励むのは、和かふえよろづやが地域の活力になってほしいから。苦労した分、我が家のように愛着も大きくなりました。



### Ⅲ. コラボメニュー開発

「よろづやで長大生が考えたメニュー出せたら面白いよね」「あ、俺のじいちゃん香育ててるから聞いてみますよ」という会話がきっかけで誕生したのは、「森のあんずタルト」と「香のシャーベット」。チームメンバーである稲玉さんのお宅には広大な香の畑が広がっており、早朝6時から稲玉さんの祖父とともに収穫体験をおこないました。小雨がぱらつく生憎の天気でしたが、初めての経験にメンバーは大興奮。この日収穫させていただいた香は冷蔵保存し、後日加工して素敵なスイーツへと生まれ変わりました。

### Ⅳ. 和かふえよろづやオープン

オープン前日は千曲市の職員や地域の方々、関係者などが集結。よろづやの完成祝いと今後の発展を願い、盛大なパーティーが開かれました。寂しい空きビルだった空間がこんなにもオシャレで素敵なお店に生まれ変わったのも、多くの方々が汗水を流したから。これからどんな「幸せ処」になるのか、地域の期待は高まるばかりです。

### Ⅴ. 恋愛小説風のフリーペーパーづくり

「屋代を恋のまちにしよう!」と始まった取り組み。商店街の方々や、お祭りに来ていた方々の恋愛エピソードを基にした短編小説と、地域の紹介を大正浪漫チックなフリーペーパーにまとめました。商店街が物語の舞台となっており、屋代を知らない人はもちろん、地域の人にもまちの新たな魅力に気づいてもらえるはず。計5冊のうち第一弾の「高校生篇」が現在発行中です。商店街の各店舗に置かせていただいているので、気になった方はお気軽にどうぞ。

### message

2017年度は内装工事、和かふえよろづやの誕生、新たな地域の魅力をまとめたフリーペーパーの発行など、活動が本格化した年でした。これも地域の方々の「まちを元気にしたい」という想いと、旧よろづやホテルの活用のあり方を模索した昨年度の活動があったからこそ。そして、今後さらに地域を元気にしていくためには皆さんの力が必要です！わいわい楽しみながら活動しませんか？

よろづやプロジェクトの活動ありがとうございました。和かふえよろづやは、みなさんに内装工事・看板制作からイベントの企画実施などに参加していただいたおかげで、9月にオープンすることができ、よろづやを中心とした人と人、人と地域のつながりが広がっています。今後は、もっとたくさんの方がたまり場として使ってもらい、地域を刺激し、まちを元気にしていくために、更に様々な仕掛けをつくっていく必要があります。みなさんには、ぜひ後輩にも引き継いでもらえれば幸いです。ここは、大学から旅立っても、いつでも帰って来られる場所です。



和かふえよろづや  
住:千曲市桜堂521-1  
☎026-214-0039  
堂:10:00~17:00  
f @wacafe.yorozuya

